

小山田大龍地区まちづくりを考える会
大龍地区まちビジョン準備会（第4回）

日時 2023.4.19（水）18:00～19:40
場所；大龍会館

参加者：

- ・ 市民7名
- ・ 街づくりアドバイザー 1名
- ・ 町田市地区街づくり課 3名

1. 前回の確認（アドバイザー）

2. 参加者の準備会の議論で印象や思うことについて

- ・ 奈良ばい谷戸は公共性が高い（東京都の支援や小田急や町田市の用地が多い）為、大龍地区が何かすると営利目的と思われて、地域の人に相手にされないのではと心配だ。
- ・ 祭りなど今ある活動を進めるためにも地域の道路整備は必要だ。
- ・ 今までは毎回同じことの繰り返しになっている気がする。街づくりの目標が見えない。⇒安心、安全な地域にすることが目標なのではないか。
- ・ 市の計画ではこの地域は緑の保全が目標になっている。
- ・ 市のまちビジョンについての考え方
まちビジョン策定のルートは二つあると考えている。
 - ① まず目標を設定し、その後活動等を決めていく。
 - ② 地域が出来る事、やりたい事を決め、その結果として目標を設定する。

<アドバイザーの意見>

- ①モノレールルートになっていた時の考える会から現在でも基本の考え方は変わっていない。地域の課題である高齢化から次世代に向けどの様にバトンパスするのか。
- ② 市街化調整区域が主体の地域にあって、次世代がこの地域に留まり生活を営むにはどうしたら良いか。
- ③ 市の条例がハード整備主体の計画策定からソフト施策によるまちづくりへと変化しているが、地域コミュニティを活性化させ次世代につなぐという事に変わりはない。

3. 市から都市計画制限や情報の入った図面の説明

- ・参加者から蛍の発生地、その他地域資源の位置の確認（ポストイット貼）
小田急及び町田市の所有地の確認、生産緑地、緑地等の都市計画制限の確認を行った。

・関連意見

- 生産緑地の次の土地利用を次世代にどの様に繋ぐのか
- 緑地の保全といっても、樹は古木になりその管理は個人では不可能。
- 市の施策で成功しているのは市長の提案が大きい。地域に目を向けてもらわないと活性化は難しい。
- 平家蛍は昔この地域に沢山いたので、これを地域の資源として保全する。
また、団子焼き（どんど焼き）などで地域の活性化を図り、目を向けてもらうことで緑地の保全も可能となるのでは。

4. 今後の考える会について

- ・地域の人たちから、準備会で何を進めているのかが見えない。
- ・地域の活性化の種探しをしている段階で地域に説明する段階にない。
- ・地域まちづくりの目標と活性化のための行動案が示せるところまで準備する。
- ・地域に対して、準備会の検討経過を情報提供する事を考える。

5. 次回 5 月 24 日（水）午後 6 時から 大龍会館